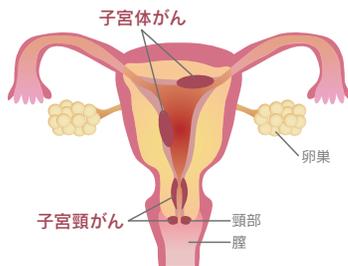


子宮頸がん  
検診を受けよう

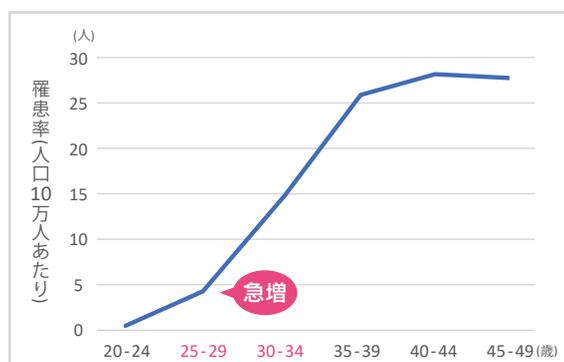
# 毎年約1万人の女性が発症する子宮頸がん

## 子宮頸がんは、女性の大切な時期に影響するがんです

日本では、毎年約1万人が子宮頸がんを発症し、約3,000人が命を落としています。患者さんは20代から増え始め、出産年齢のピークである30代で急激に増加します。治療によって子宮を摘出せざるを得ないケースも年間約1,000人にのぼります。だからこそ、早期に発見し、生活への影響を最小限にとどめることが重要です。



子宮頸がんは子宮の入り口にできるがん



出典:年齢別子宮頸がん罹患率 国立がん研究センター(全国がん罹患データ2016~2021年)

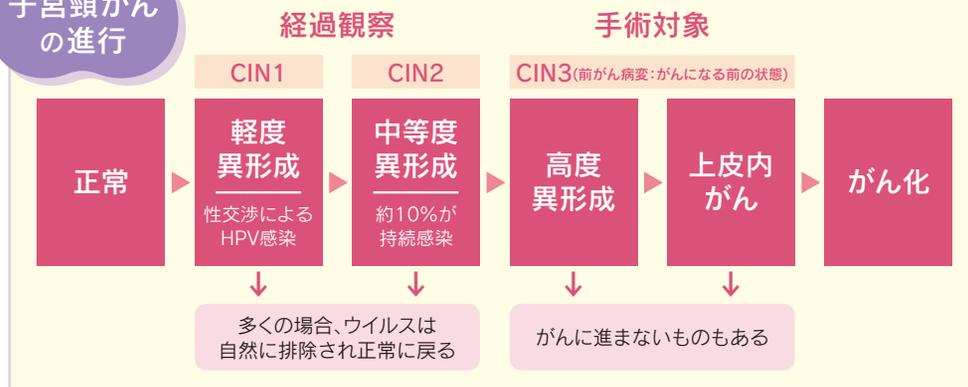
## 子宮頸がんワクチン(HPVワクチン)で予防できます

子宮頸がんの主な原因は、ヒトパピローマウイルス(HPV)の持続感染です。HPVは主に性交渉を通じて感染し、多くの女性が一生のうち一度は感染するといわれるほど非常に身近なウイルスです。

通常は免疫の働きによって排除されますが、中には数年から数十年にわたり体内に残り続ける人もいます。その場合、細胞に異常が起こり「異形成」と呼ばれる状態を経て、子宮頸がんに進行することがあります。

定期的な検診によって、この異形成の段階で早期に発見することが可能です。

子宮頸がん  
の進行



## 子宮頸がん検診は「安心」につながります

厚生労働省の報告によると、2019年度に子宮頸がん検診を受けた約354万人のうち、要精密検査となった人は約8.5万人(2.4%)、がんと診断された人は858人(0.02%)でした。つまり、約97%の方は異常なしで“安心”を得られています。しかし、日本の子宮頸がん検診の受診率は約43%にとどまっています。安心のために、そして、早期発見のためにぜひ多くの方に受けていただきたい検査です。



## 子宮頸がん検診精密検査を受けることになったら

当院では検診で「要精密検査」となった方への精密検査を行っています。

検診結果は郵送などで届くため、不安な気持ちを抱えて来院される方も少なくありません。もちろん、最終的にがんと診断されることもあります。ほとんどが前述した「異形成(前がん段階)」です。

検査

### 1.HPV検査

高リスクHPVの有無を調べます。陰性なら異常なし、陽性なら次の検査に進みます。

### 2.コルポスコピー

コルポスコープ(腔拡大鏡)と呼ばれる専用の医療器具を用いて、子宮頸部の状態を調べます。病変の程度や広がりを確認し、必要に応じて生検(病変部の一部を切り取って調べる検査)を行います。※妊娠中など出血が懸念される場合は、観察のみにとどめることもあります。

生検  
結果

図のCIN1とCIN2は経過観察です。指示どおりの間隔で受診してください。CIN3は手術対象です。手術のできる病院へ紹介しています。異形成の段階で発見できれば子宮を摘出することはありません。